

多々良沼周辺の環境整備と 伝統産業の振興を問う

野村 晴三 議員

多々良沼周辺の環境整備

【質問】 多々良沼の水面にハスが急速に繁茂してきたが、そのハスによる沼の水質や越冬する白鳥への影響は。

【答】 ハスは春から夏にかけて水質浄化の役割を果たしています。冬場は水位の低下によりハスの茎や葉が枯れるので白鳥への直接の影響

響は無いと考えております。

【質問】 沼から農業用水として揚水していることを踏まえ、ハスの刈取りやしゅんせつを県に要請する考えは。

【答】 沼は農業用水の水源地ですので、逆川等への流れが悪くなる程ハスが繁茂したり、水質や白鳥への影響があれば県に要請します。

【質問】 野鳥観察棟西側駐車場は排水路がないため、雨水により冠水してしまい、観察棟も周辺道路より低く、浸水の危険があるが、観察棟と駐車場を一体的に整備する考えは。

【答】 雨水対策や駐車場整備と併せ、公園と一体的に利用が図れるよう、県に働きかけたいと考えています。

【質問】 多々良沼公園内にあ

る未整備地と市有施設を利用して「農福連携」などの事業を実施するには、県との連携した活用が必須となるが、県への対応は。

【答】 地域の方々の要望を受けて「人と自然のふれあいの場」の公園となるよう県に対して要望していきます。

【質問】 館林紬は生産量の減少や後継者不足で存続の危機を迎えているが、本市を代表する伝統産業である館林紬を守り育てる支援策は。

【答】 ふるさと納税の返礼品やイベントでPRしていますが、織物組合と連携していきます。

たネットを活用した販売方法も検討していきます。

【質問】 館林紬で沖縄のかりゆしを製品化する支援策は。

【答】 織物組合は薄手の夏物生地の中袖シャツを毎年試作販売しています。かりゆしの制作や館林まつりのポロシャツなどの新製品開発については、組合や県繊維工業試験場などの関係機関と十分な連携を図りながら、実現できるよう支援をしていきます。

本市の子どもの 貧困対策について問う

河野 哲雄 議員

【質問】 本市では、子どもの貧困対策推進法をどのように認識しているのか、お聞きします。

【答】 子どもの貧困対策の推進に関する法律の目的では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されないよう、健やかに育成される環境整備に努め、

教育の機会均等を図ることを掲げております。本市でもその取り組みを確実に進めていかなければならないとの認識を持っています。

【質問】 本市の子どもたち、特に、就学援助を受けている子どもたちの塾通いの現状について、お聞きます。

【答】 一般家庭の児童では、

小学5・6年生で36・9%。中学生全体で51・3%でした。生活保護及び準要保護家庭の小学5・6年生で16・7%。中学生では32・1%の調査結果でした。この調査で、生活保護及び準要保護家庭の児童生徒は、一般家庭の児童生徒に比べて塾通いの割合が少なく、ことが明らかになりました。

【質問】 本市では、学校教育外の学習支援について、どのような考えをお持ちなのか、お聞きます。

【答】 家庭困窮の子どもを対象とした動きとして、公民館を会場に「無料学習塾」を開催する団体が見られ始めています。公民館活動を含む社会教育の目的は、地域のコミュニティづくりです。地域の子どもの地域で育てるという意識の向上を図り、貧困対策を初めとする社会の要請が高い地域課題の解決につながるような地域コミュニティづくりに努めていきたいと考えております。